

学校法人あけぼの学園 六瀬ほしのさと小学校 設置趣意書

学校法人あけぼの学園は令和6年に創立70周年を迎えます。70年に亘り、乳幼児期の子どもたちの育ちを最優先にした保育実践と、そこで一緒に生活する大人（保護者や教職員）の育ちを育むとともに、民主的な市民として生きて行ける基礎を培う人間教育の根幹を育む教育を模索してきました。

わたしたちは、「子どもは皆、有能な学び手であり、信じるに値する存在であるという」人間観を軸に、一人ひとりの興味・関心に基づくあそびと生活の中で刺激された内発的動機を原動力とした学びの実践を行っています。実体験に基づく本物の体験を通して身の回りの物や事象、人、社会への感覚を研ぎ澄まし、深め、探究していくことを通して、自分自身に出会い、他者と共存・協同することを大切にしてきました。

令和に入り時代の変化が顕著となり、全国で不登校児童生徒が小中合わせて過去最高の約34万人となりました。当法人の園を生き生きとした笑顔で卒園していった子どもたちの中にも、既存の学校に適應するのが難しい、あるいは嫌々登校している子どもの数が、年々増えています。

これまでの日本の学校教育では、40人学級の一斉講義型が主流で、与えられた課題を記憶し正確に解くことが求められてきました。こうした教育は、これまでの高度経済成長の時代には有効なものでしたが、変化が激しく予測困難な時代となり、保護者や子どもたちの教育への価値観やニーズが多様化する現代においては、既存の学校に加えて、一人ひとりの個性を尊重し、その多様なニーズに対応していける新たな学校が必要だと考えます。

そんな中、自然体験を基軸にした保育・幼児教育を行い、一人ひとりの子どもの持つ力を信じ、自分自身で考え行動できる人を育むドイツ発祥の「森のようちえん」が、日本全国に広がり、その数は約300団体となっています。当法人や森のようちえんのように、子ども一人ひとりの興味・関心に基づき、内発的動機を原動力とした学びの実践を行っている園は少しずつですが全国に拡がりを見せ、多くの保護者が選択される一方で、既存の学校教育との接続がうまく行われな「小1プロブレム」の問題も深刻化しており、当法人が掲げる教育観に基づいた学校設置を望む声が、保護者や子どもたちから多数寄せられるようになりました。

中央教育審議会が公表した答申『令和の日本型学校教育』（令和3年1月26日）においても、社会の変化が加速している令和の時代において、新学習指導要領の着実な実施を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を行う「主体的で対話的な深い学び」の実現を目指すことは、最重要の課題であると位置づけられています。

これらを受けて、当法人は、70年間に培われた教育理念を礎に、20年に亘って「子どもが学びの主人公」をコンセプトに小中学生への教育実践を行う NPO 法人コクレオの森とも協力しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を行う小学校を人と自然が調和して暮らす里山地域（猪名川町六瀬）に設置します。

当法人が設置する小学校は、1クラス20名程度の少人数の学校で、従来の教授型の学びではなく、子どもたちの豊かな実体験を土台とする援助型の教育を行います。この援助型の教育を行うには、里山地域が最適な場所となります。里山地域には、人と自然が調和する暮らしがあり、地域の人々の協力を得ながら、様々な体験学習を展開できます。豊かな実体験を土台とし、体験に基づく基礎学習、地域の文化・歴史や自然を題材にした探究学習、地域課題に取り組む課題解決学習などを行うことが特徴です。

具体的には、農業体験・生き物の飼育・郷土料理・フィールドワーク・地域行事への参加と企画など、地域の歴史や文化などの生活に即した体験学習を通して、能動的に学びに向かう力を養います。それらの学びと学習指導要領に定められた領域の学びとを紡ぎ、個別化と協働化の手法を適度に取り入れつつ、子どもたちの思考力・判断力・表現力を高め、知識技能の習得と人間性を養います。また、この小学校では、子どもも教師も対等な立場で参加するミーティングで対話を積み重ね、学校行事や学校生活のルールなどを決めていきます。学校生活に子どもたちの自治活動を取り入れることで、子どもたちを民主的に生きる市民として育むことも重視します。

前述したことに加え、変化の激しい予測不能な時代であると言われる中で、保護者の学校教育への価値観やニーズは多様化しており、子どもの学校のために引越をする（「教育移住」を選択する）家庭が全国でも増加しています。そして、子育てする環境として、豊かな自然と地域住民の方々との温かい交流に加え、都心へのアクセスの良さも兼ね備える「トカイナカ」への注目が集まっています。

猪名川町六瀬は、豊かな自然に恵まれ、地域住民の活動も活発で、顔と顔が見える温かいつながりを形成している地域になります。加えて、日生中央駅や「川西 IC」、「宝塚北スマート IC」にも近く、都心へのアクセスが容易な地域です。また、空家活用特区として兵庫県の指定を受け、積極的に移住を受け入れる体制も整いつつあります。このため、当法人が行う里山地域での実体験を土台とする援助型教育を豊かに展開できるとともに、その教育を望む保護者のニーズとも合致する地域だと考えます。

また、六瀬中学校跡地の近くには、猪名川町立の学校として、楊津小学校と大島小学校が存在し、どちらも小規模特認校となっています。当法人が設置する小学校も、1クラス20名程度であるため、両小学校とも積極的な交流を行えることにも魅力を感じています。子どもたちの声を聴きながら、地域に開かれた学校運営を行うことで、猪名川町六瀬地域全体の子どもたちの学びと育ちと地域の活性化に貢献できる学校運営を行います。



学校法人
あけほの学園



認定NPO法人
コクレオの森